

区立鹿本幼稚園の閉園延期を求める陳情

(文教委員会付託)

受理番号 第 88 号

受理年月日 平成 24 年 6 月 11 日

付託年月日 平成 24 年 6 月 21 日

陳情者 . . . . .

. . . . .

陳情原文 平成 23 年 9 月、江戸川区教育委員会より「区立鹿本幼稚園は平成 26 年 3 月に閉園する」方針が当時の在園児保護者に通知され、来年度からの新入園児募集は行われぬ予定。鹿本幼稚園の周辺には区立幼稚園はありません。教育委員会は、閉園に関する説明会の中で、現 3 歳児の保護者に今年 4 月からの私立幼稚園入園を検討するよう提案しました。

教育基本法第 11 条に「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」とあるように、幼稚園選びは、子どもの一生にもかかわる大切なことでもあります。とくに区立幼稚園に入園する親子は、入園の 2 年以上前から入園を希望していることが多く、そのための準備も、親子で時間をかけて進めています。そのような状況からすれば、今回の閉園通知は、唐突且つ時期も遅く、また周知の仕方も不十分(資料 1)であり、とくに鹿本幼稚園へ入園を希望していた子ども達とその保護者への配慮がまったくありません。そのため、さまざまな理由により今年 4 月、私立幼稚園に入園できなかった子ども達が出てしまいました(資料 2)。

その上、現鹿本幼稚園在園児の 2 歳下までの弟妹が私立幼稚園に 3 歳からは入園できないという深刻な問題も生じています(資料 2 の 4、資料 3、資料 4)。

私立幼稚園では、年中および年長からの途中入園の募集をしていないことも多く、来年以降、これらの子ども達が希望する幼稚園に入園できず、幼児期に集団生活を体験することなく小学校へ入学するという事態につながりかねません。

これらの問題を回避するため、区立幼稚園の閉園計画は、閉園通知より最低 5 年程度の猶予をもって行わなければ(鹿本幼稚園の場合は平成 29 年 3 月閉園とする)利用者や利用を予定していた子ども達とその保護者に多大な負担と混乱を与えます。

今回の鹿本幼稚園閉園に関する周知が遅かったことは、先日の予算特別委員会で区長・教育長ともに認めています。

つきましては、区立鹿本幼稚園の閉園時期を平成 26 年 3 月より適切な期間延期していただきたく陳情申し上げます。